

令和3年度（2021年度）

京都市立芸術大学 音楽学部

入学試験問題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

目 次

第一次試験

作曲専攻	1
指揮専攻	7
ピアノ専攻	9
弦楽専攻	10
管・打楽専攻	13
声楽専攻	16
音楽学専攻	17

第二次試験

音楽通論	22
聴音書取（旋律聴音）	30
聴音書取（和声聴音）	31
新曲視唱	32
コールユーブンゲン視唱（声楽専攻のみ）	33
ピアノ新曲視奏（ピアノ専攻のみ）	34
副科ピアノ演奏（ピアノ専攻以外）	35

※副科ピアノ演奏は事前の動画提出による映像審査

令和4年度入学者選抜試験変更のお知らせ

音楽学専攻変更予告	36
-----------	----

第一次試験

令和3年度（2021年度）

音楽学部入学試験各専攻実技課題

作曲専攻

(第1日) 和声法：A バス課題：与えられたバスに和声をつけ、4声体とすること。
B ソプラノ課題：与えられたソプラノに和声をつけ、4声体とすること。
両課題とも記譜は次の a 又は b のいずれかを選択すること。

- a ト音記号とヘ音記号の大譜表による。
 - b ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。
- 実施例（a, b による記譜）は別記のとおり。試験時間各2時間30分

作品提出：自作品を1曲以上、試験当日に提出すること。（コピー譜を提出のこと。提出された作品は返却しない。）

(第2日) 二声対位法：与えられた全音符の定旋律に、対旋律をつくる。試験時間2時間
対旋律は、2分音符、4分音符、8分音符と移勢（シンコペーション）を含む、いわゆる自由（華麗）対旋律によるものとする。

解答は、次の1～6の6通りが必要である。

- 1：定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。
- 2：定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。
- 3：定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。
- 4：定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。
- 5：定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。
- 6：定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜移調してもよい。

記譜は a 又は b のいずれかを選択すること。

- a：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。
 - b：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。
- 実施例（b による記譜）は別記のとおり。

作曲：与えられた素材により器楽曲を作曲すること。試験時間4時間30分

(第3日) 面接：各日の試験内容、及び提出作品について等の試問。

◎作曲専攻（第1日）和声法の実施例

*課題 {過去の出題（ソプラノ課題）より冒頭2小節}

Andante (♩=72ca.)



*記譜 a による実施例

Andante (♩=72ca.)



第一次試験

* 記譜 b による実施例

Andante (♩=72 ca.)

mp mf mp mp mp

◎作曲専攻（第 2 日）二声対位法の実施例

* 記譜 b による実施例

定旋律

実施例

1

2

3

4

5

6

第一次試験

令和3年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法（バス課題）

- 次のバスの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。
記譜は、a. または b. のいずれかを選択する。
a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。
b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

Allegro (♩ = 72)

1 *f* *mf* *mp* *f*

5 *mp* *mf*

9 *mp* *p* rit.

(試験時間 2時間30分)

令和3年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法（ソプラノ課題）

■ 次のソプラノの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。

記譜は、a. または b. のいずれかを選択する。

a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。

b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

Moderato (♩ = 76)

5

10

(試験時間 2時間30分)

第一次試験

令和3年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第二日：対位法

■ 次の全音符の定旋律に、対旋律を一つ作り、二声体としなさい。

対旋律は、二分音符、四分音符、八分音符と移勢（シンコペーション）を含む、いわゆる自由（華麗）対旋律によるものとする。

解答は、次の1－6の6通りが必要である。

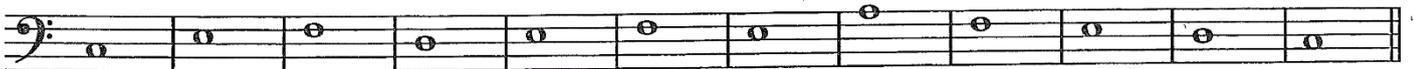
- 1：定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。
- 2：定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。
- 3：定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。
- 4：定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。
- 5：定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。
- 6：定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜に移調してもよい。

記譜は、a.またはb.のいずれかを選択すること。

- a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。
- b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 2時間)



第一次試験

指揮専攻

(第1日) 和声法：与えられたバスとソプラノの旋律に和声をつけ、4声体とすること。

(記譜はト音記号とヘ音記号の大譜表による。) 試験時間3時間

(第2日) 1 下記の楽曲の指揮をすること。演奏箇所は、当日指定する。(演奏は二台ピアノによる)

(ア) L. v. Beethoven : 交響曲 第1番 ハ長調 作品21より第1楽章, 第4楽章

(イ) L. v. Beethoven : 交響曲 第2番 ニ長調 作品36より第1楽章, 第2楽章

(ウ) L. v. Beethoven : 交響曲 第4番 変ロ長調 作品60より第1楽章, 第2楽章

(エ) L. v. Beethoven : 交響曲 第7番 イ長調 作品92より第1楽章, 第2楽章

上記, 出版社は自由とする。

2 下記の楽曲による総譜視奏 (スコアリーディング)

(ア) L. v. Beethoven : 交響曲 第7番 イ長調 作品92より第2楽章

(イ) 初見視奏 (当日提示する管弦楽曲)

3 既に習得している楽器 (ピアノ, 弦楽器, 管打楽器, ハープのうちいずれか1つ) 若しくは声楽を演奏すること。その場合, 楽器は各自持参すること。ただし, コントラバス, ハープについては, 楽器を持参できない場合は, 本学で用意するので, 楽器を持参するか否かを願書に記入すること。マリンバについては, 本学で用意する楽器を使用すること。なお, 声楽を除きすべて無伴奏とし, 演奏曲目を願書に明記すること。伴奏者は本学で用意する。ピアノで受験する場合も, 第二次試験の副科ピアノ演奏を受験しなければならない。

※声楽選択者の伴奏用楽譜について

声楽を選択する場合, 伴奏用楽譜を出願の際1曲につき2部ずつ提出すること。

- ・1ページの大きさはA4判とし, 各ページが全開するよう横一連に綴じること。
- ・表紙には曲名, 調, 氏名を明記すること。(表紙の右上部分には何も書かないこと。)
- ・角型2号の封筒に入学願書等の提出書類を同封し, **簡易書留・速達**で郵送すること。封筒には「入学願書在中」と明記すること。(入学願書等提出用封筒は使用しなくてもよい。)

4 面接を行う。

第一次試験

令和3年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

指揮専攻：和声法

- 次のバス、およびソプラノの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。
記譜は、ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 3時間)

Choral (♩ = 72)

6

Moderato (♩ = 84)

5

10

第一次試験

ピアノ専攻

下記の楽曲を演奏すること。

- (第1日) 1 ロマン派以降の作品から、練習曲以外の任意に選んだ作品。
- (第2日) 2 F. Chopin : 練習曲作品10及び作品25から任意の2曲を選択し、第1日目に、本人による抽選で、演奏する1曲を決定する。
- 3 J. Haydn 又は M. Clementi 又は W. A. Mozart 又は L. v. Beethoven の、任意のソナター曲全楽章を選択し、第1日目に本人による抽選で、演奏する(1つの、あるいは複数の) 楽章を決定する。

※注意

- (1) いずれも暗譜演奏すること。
- (2) 繰り返しは自由。但し、ソナタ形式の提示部については繰り返ししないこと。
- (3) 演奏するすべての曲の作曲者、作品番号、楽章、調名を願書に明記すること。
- (4) 1については7分以上12分程度までとする。
- (5) 1については、変奏曲の抜粋は認めない。
- (6) 2について、以下の曲は除く。
作品10から3, 6, 9 作品25から1, 2, 7
- (7) 2について、作品番号にかかわらず2曲を選択することも可。
(例 : 10-1 10-2 あるいは25-4 25-5 あるいは10-1 25-4)
- (8) 時間の都合上カットすることがある。

第一次試験

弦楽専攻

下記の課題を演奏すること。

- ※注意**
- (1) 選択した曲目及び調名を願書に明記すること。
 - (2) 全ての課題は伴奏なしで暗譜演奏すること。(繰り返し及びダ・カーポはしない。)
 - (3) コントラバスについてのみ、楽器を持参できない場合は本学で用意するので、楽器を持参するか否かを願書に記入すること。
 - (4) 時間の都合上カットすることがある。

* ヴァイオリン

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、その第1楽章と第2楽章(ただし Lalo のスペイン交響曲においては第1楽章と第4楽章)を演奏すること。

M. Bruch : 協奏曲 第1番 ト短調 作品26

A. Dvořák : 協奏曲 イ短調 作品53

(Adagio ma non troppo から Finale の前までを第2楽章とする。)

E. Lalo : スペイン交響曲 ニ短調 作品21

F. Mendelssohn : 協奏曲 ホ短調 作品64

N. Paganini : 協奏曲 第1番 ニ長調 作品6

(オリジナル版により演奏すること。カデンツァはなし。)

C. Saint-Saëns : 協奏曲 第3番 ロ短調 作品61

J. Sibelius : 協奏曲 ニ短調 作品47

P. Tchaikovsky : 協奏曲 ニ長調 作品35

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Vieuxtemps : 協奏曲 第4番 ニ短調 作品31

H. Vieuxtemps : 協奏曲 第5番 イ短調 作品37

(カデンツァはなし。Adagio から Allegro con fuoco の前までを第2楽章とする。)

H. Wieniawski : 協奏曲 第1番 嬰へ短調 作品14

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Wieniawski : 協奏曲 第2番 ニ短調 作品22

(第2日) 1 C. Flesch : Scale System より No. 5, 6, 7, 8, 9, 10 ただし No. 6~No. 9 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No. 6, 7, 8, 9, 10 は4分音符単位(16分音符4個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は No. 5 はメトロノームで4分音符=80以上, No. 6~10 は8分音符=60以上で演奏すること。

2 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

P. Rode : 24Caprices

J. Dont : Etüden und Capricen 作品35

N. Paganini : 24Caprices 作品1 (ただし17番冒頭及び24番の繰り返しはすること。)

第一次試験

* ヴィオラ

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

Carl Stamitz : 協奏曲 ニ長調 作品1 第1楽章及び第2楽章 (版は自由とする。カデンツァを除く。)

A. Hoffmeister : 協奏曲 ニ長調 第1楽章及び第2楽章 (IMC版を使用すること。カデンツァを除く。)

M. Reger : Suite 作品131d No.1 第1楽章及び終楽章

(第2日) 1 C. Flesch : Scale System より No. 5, 6, 7, 8

ただし No. 6, 7, 8 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No. 6, 7, 8 は8分音符単位 (16分音符2個分) で、スラーをかけることとする。

○速度は任意である。

2 B. Campagnoli : 41 Caprices 作品22より任意の1曲を選択し演奏すること。(版は自由とする。)

* チェロ

(第1日) 任意の協奏曲より第1楽章又は最終楽章を演奏すること。

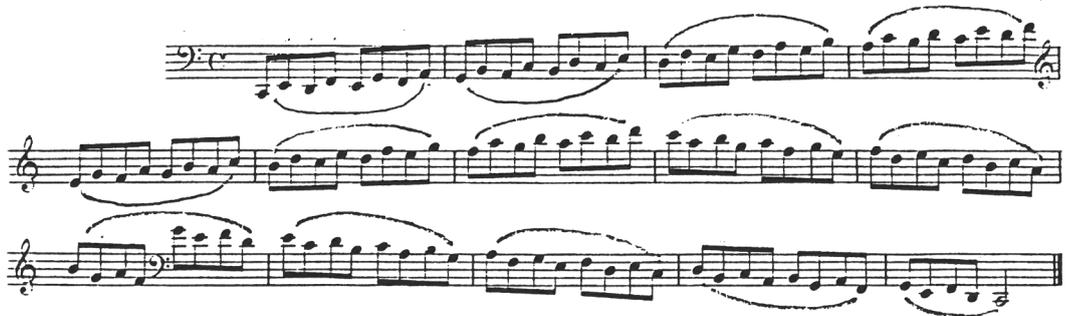
(第2日) 1 J. Loeb の Gammes et arpèges (Billaudot版) を参照のうえ、ハ長調による下記

(a) から (f) までの課題を演奏すること。

(a) 4オクターヴにわたる単音の音階 (スラーは1弓8音♩=100以上)

(b) 4オクターヴにわたる単音分散3度の音階 (スラーは1弓8音♩=100以上)

ハ長調の例



(c) 4オクターヴにわたるアルペジオ (スラーは1弓6音♩=60以上)

(d) 2オクターヴにわたる重音3度の音階 (スラーは自由♩=80以上)

(e) 2オクターヴにわたる重音6度の音階 (スラーは自由♩=80以上)

(f) 2オクターヴにわたる重音8度の音階 (スラーは自由♩=80以上)

(注) (d) (e) (f) の音階を始める音域は任意とする。また運指は全て自由とする。

2 J. Duport : Etudes より任意の1曲を演奏すること。

※上記全ての課題曲の版は自由とする。

第一次試験

*コントラバス

(第1日) 任意ソナタの第1楽章及び第2楽章又は協奏曲の第1楽章を演奏すること。

(第2日) 1 下記 (a) ~ (d) までの音階及びアルペジオの課題を演奏すること。(速度は自由。スラーの変更可。)

2 J. Hrabec : Etudes for the String Bass 第7番を演奏すること。

(a)



(b)



(c)



(d)



第一次試験

管・打楽専攻

以下の楽曲を演奏すること。

- ※注意**
- (1) 下記の第1日の暗譜演奏の指示のない課題曲の楽譜は各自持参すること。(本学で楽譜は用意しない。)
 - (2) 下記の第2日の楽曲は、いずれも暗譜演奏すること。(繰り返しはしない。)
 - (3) 伴奏者は、いずれも本学において準備するので、同伴しないこと。
 - (4) 時間の都合上カットすることがある。

* フルート

- (第1日) E. Köhler : 12 Medium Difficult Exercises 作品33 第Ⅱ巻の中から当日指定する曲
(版の指定なし。)
- (第2日) W. A. Mozart : 協奏曲 第1番 ト長調 K. 313 (K6. 285C) 第1楽章 (カデンツァを除く。)

* オーボエ

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes op. 31 (Gerard Billaudot 版) より第11番, 第14番, 第19番, 第21番, 第26番, 第33番, 第35番, 第36番, 第40番, 第44番の中から当日指定する曲
- (第2日) J. Haydn : 協奏曲 ハ長調 Hob. Vllg : C1 第1, 第2楽章 (Breitkopf 版)

* クラリネット

- (第1日) 1 R. Eichler : Scales for Clarinet (KUNITACHI COLLEGE OF MUSIC) の各調1・2番をレガート, スタッカートで演奏すること。(当日指定する調を暗譜で演奏すること。)
- 2 C. Rose : 32 Etudes (Alphonse Leduc版) より第6番, 第9番, 第14番, 第15番, 第17番, 第20番, 第23番, 第26番, 第28番, 第29番の中から当日指定する曲。
- (第2日) Carl Maria von Weber : Concertino Es-Dur 作品26

* ファゴット

- (第1日) J. Weissenborn : Fagott Studien 作品8 第2巻より第1番から第15番までの中から当日指定する曲 (繰り返しなし, 版の指定なし)
- (第2日) G. P. Telemann : Sonata f-moll 第1楽章, 第4楽章 (版の指定なし。)

* サクソフォン

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes pour tous les saxophones (Alphonse Leduc版) より第14番, 第17番, 第22番, 第26番, 第29番, 第31番, 第36番, 第40番, 第49番, 第53番の中から当日指定する曲
- (第2日) A. Grazounov : Concerto en mi bémol (Alphonse Leduc版) 冒頭から練習番号第16番まで演奏すること。

* ホルン

- (第1日) C. Kopprasch : Sixty Selected Studies (C. Fischer版, 繰り返しなし) より第7番, 第12番, 第13番, 第15番, 第16番, 第19番, 第23番, 第25番, 第27番, 第28番の中から当日指定する曲
- (第2日) W. A. Mozart : 協奏曲 第4番 変ホ長調 KV. 495 より第1楽章 (カデンツァなし) 及び第3楽章 (第99小節目まで)

第一次試験

* トランペット

- (第1日) 1 E. F. Goldman : Practical Studies for the Trumpetより第19番 Cadenzas の中から当日指定する曲 (C. Fischer版)
2 OSKAR BOEHME : 24 MELODIC STUDIES in all tonalities Opus20 より第1番～第16番の中から当日指定する曲
なお、曲を演奏する前に、それぞれの調の音階を最初はテヌートで、リピート後は最後の分散和音までスタッカートで一息で演奏すること。
- (第2日) G. Alary : Morceau de Concours

* トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より第10番, 第15番, 第16番, 第17番, 第19番, 第21番, 第25番, 第37番, 第38番, 第39番, 第40番, 第42番の中から当日指定する曲 (繰り返しなし)
- (第2日) F. David : Konzertino 変ホ長調 Op.4 第1楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号Dまで演奏)

* バス・トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より第11番, 第13番, 第17番, 第20番, 第21番, 第22番, 第26番の中から当日指定する曲 (繰り返しなし。第13番, 第17番, 第22番はオクターブ下で演奏すること)
Ostrander : Melodious Etudes for Bass Trombone (C. Fischer版) より
第6番, 第10番, 第16番の中から当日指定する曲
- (第2日) F. David : Konzertino 変ロ長調 第1楽章 (Zimmermann版を使用すること。練習番号Dまで演奏)

* ユーフォニアム

- (第1日) 1 J. B. Arban : Fourteen Characteristic Studies より第1番, 第4番(Encore music publishers)
2 M. Bordogni : Complete Vocalises for Trombone より第6番～第15番(Encore music publishers)
- (第2日) P. V. De la Nux : Solo de Concours pour Trombone et Piano (Leduc版), Concert Piece for Trombone or Baritone and Piano(Southern music company版) (どちらの版でもよい)

* チューバ

- (第1日) 1 C. Kopprasch : 60 Selected Studies より第5番, 第7番, 第8番, 第9番, 第10番, 第11番, 第12番, 第13番, 第14番, 第15番の中から当日指定する曲
2 M. Bordogni : 43 Bel Canto Studies より第2番～第10番の中から当日指定する曲
- (第2日) W. S. Hartley : Suite for Unaccompanied Tuba (Elkan-Vogel 版) より第1楽章, 第2楽章, 第4楽章

* 打楽器

打楽器 (A) , 打楽器 (B) のいずれかを選択して演奏すること。(A, B いずれを選択したか, またAについては選択した曲名を願書に明記すること。小太鼓については立奏, 座奏いずれも可。両日とも小太鼓およびスタンドは持参すること。)

第一次試験

打楽器 (A)

- (第1日) (ア) A. J. Cirone : Portraits in Rhythmより, 第6番, 第15番の中から当日指定する曲
(イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag)より, 第25番, 第28番, 第29番, 第30番の中から当日指定する曲
(ウ) 下記の楽曲の中から一曲を選択し, 本学で用意するマリimbaで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。
J. S. Bach : ソナタ 第1番 ト短調 BWV1001
J. S. Bach : パルティータ 第1番 ロ短調 BWV1002
J. S. Bach : ソナタ 第2番 イ短調 BWV1003
J. S. Bach : パルティータ 第2番 ニ短調 BWV1004よりCiaccona
J. S. Bach : ソナタ 第3番 ハ長調 BWV1005
J. S. Bach : パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006
- (第2日) 第1日目の(ウ)に同じ

打楽器 (B)

- (第1日) (ア) A. J. Cirone : Portraits in Rhythmより, 第6番, 第15番の中から当日指定する曲
(イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag)より, 第25番, 第28番, 第29番, 第30番の中から当日指定する曲
(ウ) Siegfried Fink : Trommel-Suiteより Intrada Toccata Mista Marcia (暗譜で演奏すること。)
(エ) J. S. Bach : パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006より Bourée Gigue (本学で用意するマリimbaで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。)
- (第2日) 第1日目の(ウ)に同じ

第一次試験

声楽専攻

(第1日) 自由曲：歌曲あるいはアリア1曲（宗教曲も含む）。演奏時間は4分程度とする。ただし、課題曲以外のものを選ぶこと。

(第2日) 課題曲：下記の15曲の中から各自4曲を選ぶこと。その中から当日2曲を指定する。

- | | | |
|------|-----------------|----------------------------|
| (1) | G. Caccini | Amarilli |
| (2) | S. Rosa | Star vicino |
| (3) | A. Scarlatti | Le violette |
| (4) | F. Durante | Vergin, tutto amor |
| (5) | F. Durante | Danza, fanciulla gentile |
| (6) | G. Giordani | Caro mio ben |
| (7) | G. Caccini | Amor, ch' attendi? |
| (8) | A. Stradella | Se nel ben |
| (9) | M. A. Bononcini | Pastorella, spera, spera |
| (10) | V. Bellini | Ma rendi pur contento |
| (11) | S. Donaudy | Quelle labbra non son rose |
| (12) | F. Schubert | Geheimes |
| (13) | R. Schumann | Du bist wie eine Blume |
| (14) | 平井康三郎 | ふるさとの |
| (15) | 山田耕筰 | 青い小鳥 |

- ※注意**
- (1) 試験の際の演奏は暗譜とする。
 - (2) 曲はすべて原語で演奏することが原則であるが、慣例として認められている訳語は可。
 - (3) 自由曲で、オペラ及びオラトリオ等のアリアは原調によるものとするが、慣例として移調されて歌われるものはその限りではない。
 - (4) 選択した曲名、作曲者名及び調性を願書に明記すること。（提出後の調性の変更は認めない。）
 - (5) 自由曲及び課題曲については、時間の都合上、カットすることがある。
 - (6) 伴奏者は、両日とも本学において準備するので、同伴しないこと。

第一次試験

令和3年度（2021年度）
京都市立芸術大学音楽学部入学試験問題
音楽学 英語

1. 次の文章を読んで設問に答えなさい。

One important characteristic of Modernism is the uneasy relationship between a given artistic medium and all others.⁽ⁱ⁾ For certain twentieth-century composers, the borders between music and the other arts were strict and impermeable; but for others, these borders were fluid, perhaps even wholly unreal. This point of (x) was especially noticeable with respect to music and spoken language, since it has always been difficult to tell exactly where one ends and the other begins: both of these artistic media consist of sound that varies over time though in one case those sounds are called notes and in the other case phonemes. The word “music”—roughly the same in all European languages—is derived from the Greek *mousikē*, which refers to anything governed by the Muses, that is, to any fine art whatsoever. Therefore, in Western culture there has been a certain primary feeling that the arts are (y) one, and that any attempt to divide music from poetry, painting, and other arts is bound to be somewhat arbitrary and infirm.⁽ⁱⁱ⁾

(Republished with permission of The University of Chicago Press, *Modernism and Music*, Daniel Albright, 2004; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.)

(1) 空所(x)を埋めるのもっとも適切な語を選んで、その記号を書きなさい。

A. subvention B. convention C. contention D. attention

(2) 空所(y)を埋めるのもっとも適切な語を選んで、その記号を書きなさい。

A. never B. peripherally C. ever D. fundamentally

(3) 下線 (i)の the uneasy relationship between a given artistic medium and all others が二十世紀の作曲家にとってどのようなものであったかを簡単に説明しなさい。

(4) 下線(ii)の主張について、これが現在でも妥当な考えだと思うのかどうかを述べ、その理由を簡単に説明しなさい。

2. 次の文章の内容を日本語で要約した上で、それに対する自分の意見を述べなさい。

If you're under ninety, chances are that you've spent most of your life listening to electronic music. The experience that used to be called music up until the 1920s—listening to someone sing or play a musical instrument live and unamplified—actually forms an increasingly minor

第一次試験

percentage of our listening experiences now. Instead, we listen to records, or we listen to the radio, or we go to see musicians who transmit electronic signals through electronic PA systems. It might seem extreme to include all the products of the recording age under the umbrella term electronic music, but I think it's warranted.

(Brian Eno. *Ohm: The Early Gurus of Electronic Music*. Ellipsis Arts CD 3670)

3. 次の文章を読んで設問に英語で答えなさい。

Mechanism, the core paradigm of modern science^(A) from the mid-seventeenth century onward, describes the world as a machine—a great clock, in seventeenth- and eighteenth-century imagery—whose parts are made of inert matter, moving only when set in motion by some external force, such as a clockmaker winding the spring. According to this originally seventeenth-century model, a mechanism is something lacking agency, produced and moved by outside forces; and nature, as a great mechanism, is similarly passive. Assuming that living beings are part of nature, according to this model, they too must be rationally explicable without appeal to intentions or desires, agency or will.

This ideal of explanation is standard in the natural sciences, and even the human and social sciences frequently strive for natural-scientific explanations in which agency is absent. The ban on agency seems as close to the heart of what science is as any scientific rule or principle. To violate it seems tantamount to lapsing out of science into mysticism.

Yet historical scrutiny reveals that this model of science itself had a theological origin.^(B) A material world lacking agency assumed, indeed required, a supernatural god. The seventeenth-century banishment of agency, perception, consciousness, and will from nature and from natural science gave a monopoly on all these attributes to an external god. [...] This mode of science relied upon a divine Designer to whom it outsourced perception, will, and purposeful action. In other words, the principle banning agency from nature and natural science was not only an informing principle of modern science, but was simultaneously and informing principle of modern theology.

(Republished with permission of The University of Chicago Press, *The Restless Clock: A History of the Centuries-Long Argument over What Makes Living Things Tick*, Jessica Riskin, 2016; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.)

【註】

inert = 不活性

banishment = 追放

theology = 神学

(1) Describe in your own words what “the core paradigm of modern science” is (see underlined sentence A)

(2) Explain what the “theological origin” of modern science is (see underlined sentence B)

令和3年度（2021年度）
京都市立芸術大学音楽学部入学試験問題
音楽学 小論文

次の問題〔(1) (2) の両方〕に答えなさい。

※解答用紙のおもて面に (1)、裏面に (2) を答えなさい。

設問 (1)

Steven Pinker の言った“auditory cheesecake for the brain”という音楽の位置づけについて、批判的に論じなさい。賛成の立場、反対の立場のいずれをとるのでも構いませんが、自分とは逆の立場を取る人を説得することを心がけて下さい。

【背景】

Steven Pinker は認知心理学者、進化論的心理学者である。すべての動物の行動は自然淘汰の結果としてとして現在の形態を取るとする進化論者は、音楽もそのような自然淘汰の産物としてきた。例えば、鳥の中には繁殖期に雄鳥が「歌」を歌う種が存在する。より複雑で巧みな歌を歌うものほど雌鳥とつがいとなるチャンスが増すことが確認されている。古典的な進化論的音楽観は、音楽はその延長と考える。これに対して Pinker は、音楽は脳の快中枢（その部位が活性化すると快楽を覚える脳の領域）に働きかける直接的な作用を持っているとした。類似の刺激には麻薬などの薬物、アルコール、そして甘いデザートなどが考えられるとし、“auditory cheesecake”という言葉を用いて古典的な進化論の音楽観を否定する立場を取った。

設問（2）

次の文章を読み、クラークス(注1)の主張を参考にしながら、「リズム」とは何か、および「拍子」とは何かについて、あなた自身の考えを述べなさい。ただしその際、クラークスの意見を必ずしも肯定する必要はありません。

(注1) ルートヴィヒ・クラークス（1872-1956）。ドイツの哲学者。

リズムの典型的な例として、クラークスは水面の波動をあげ、その波頭に乗って揺れる木片の上下運動を表象する。上下運動は二点のあいだの往復であるから、明らかに両端において反転が起こっているはずだが、彼はその反転のなかに切れ目を認めることを拒むのである。たしかに波の山は谷へ、谷は山へと移り変わるが、その移行は滑らかであり転向点は鋭角の屈折ではなくまるやかな弧線を描いている。弧線のなかにも分節への契機は含まれているが、それは細分しようとしてもできない運動の持続性を逆説的に浮かびあがらせる役割をしているというのである。

これにたいしてクラークスにとって、拍子のもっとも典型的な例はメトロノームの刻む拍子である。機械的な「同一物の反復」であり、何の感動も惹き起こさない純粹に規則的な現象だといってもよい。真にリズムを求める演奏家はメトロノームそのままには演奏しないし、規則づくめの分列行進は滑らかなメヌエットに比べてけっしてリズムカルとはいえない。ひと言でいえば、リズムがみずから生きて動くものであるのにたいして、拍子は人間の頭が造った人工物なのである。

（山崎正和『リズムの哲学ノート』中央公論新社、2018年より）

音楽学専攻 出題意図

➤ 英語

1. 長文の英語の内容や構造を的確に把握することができるかどうか、また音楽的な内容を正確に理解できるかどうかをみた。
2. 短い英文の意味内容を正しく理解し、その全文を文脈にそって適切な日本語に要約する能力をみた。
3. 英語の文章の内容を十分に把握した上で、英語の設問に英語で的確に答えることのできる理解能力と作文能力をみた。

➤ 小論文

- (1) 提示された文章の意味内容を正確に読み取ったうえで、音楽の基礎概念を正しく理解しているかどうか、そしてそれを適切に表現できるかどうかをみた。
- (2) この問題の根底には「人間はなぜ音楽をやるのか」「音楽とは人間という存在にとって何なのか？」という深遠な哲学的問いが存在します。

この問題については音楽研究者の間でも長い間論争の中核をなしてきています。そのような論争の中で回答者自身が音楽と人間の間をどう考えるかを、単なる個人的な感想・意見の陳述をする能力ではなく、対立する立場の論理の矛盾や穴を指摘する能力、自分の結論を論理的に主張する能力を測るのがこの問題の意図です。

第二次試験

令和3年度
京都市立芸術大学音楽学部入学試験

◆音楽通論◆

問題用紙

受験 番号	
----------	--

I. 次の楽譜を見て、設問に答えなさい。(計34点)

The musical score consists of three systems. The first system shows a vocal line and piano accompaniment. The piano part has four numbered boxes (1, 2, 3, 4) highlighting specific chords. A large letter 'ア' is written above the first box. The second system is marked 'Tempo I.' and features a vocal line with the lyrics '- dan - do molto' and a piano accompaniment. The piano part has two numbered boxes (5, 6) highlighting chords. A large letter 'イ' is written above the second box. The third system continues the piano accompaniment with a large letter 'ウ' written above the right side. At the bottom of the page, a large letter 'オ' is written.

第二次試験

(1) □で囲まれた①②③④⑤⑥に該当する和音の種類を、例にしたがって記しなさい。

(例：長三和音) (計 12 点、各 2 点×6)

(2) ①②③④⑤⑥の和音それぞれについての指示にしたがって、調号を用いなくて、

全音符で記しなさい。(計 12 点、各 2 点×6)

①の和音の基本形を長 2 度高く、低音部譜表に記しなさい。

②の和音の第三転回形を、減 7 度低く高音部譜表上に記しなさい。

③の和音を下属和音とする調の主和音の第二転回形を、ソプラノ譜表上に記しなさい。

④の和音の第一転回形を、短 2 度高くアルト譜表上に記せ。

⑤の和音を属和音に持つ長調の主和音を基本形で、テノール譜表上に記せ。

⑥の和音の第一転回形を短 3 度高くソプラノ譜表上に記せ。

(4) **ア**の音を完全 4 度高くした音を属音とする長音階を、調号を用いなくて、高音部譜表上に、
全音符で記しなさい。(2 点)

(5) **イ**の音を短 6 度低くした音を下属音とする和声的短音階を、調号を用いなくて、低音部譜表上に、
全音符で記しなさい。(2 点)

(6) **ウ**の音を完全 5 度高くした音を導音とする旋律的短音階を、調号を用いなくて、アルト譜表上に、
上行形下行形共に、全音符で記しなさい。(2 点)

(7) **エ**の音を減 7 度低くした音を主音とする自然的短音階を、調号を用いなくて、テノール部譜表上に、
全音符で記しなさい。(2 点)

(8) **オ**の音を増 2 度高くした音を主音とする和声的長音階を、調号を用いなくて、ソプラノ部譜表上に、
全音符で記しなさい。(2 点)

第二次試験

II. 次の楽譜を見て、設問に答えなさい。(計 50 点)

ア イ ウ

① ② ③

エ オ カ キ

④ ⑤ ⑥

ク ケ

⑦ ⑧ ⑨ ⑩

コ

第二次試験

(1) ①～⑤で得られた音程を、解答用紙に示された音の下部につくりなさい。(計10点、各2点×5)

(2) ⑥～⑩の転回音程を、解答用紙に示された音の上部につくりなさい。(計10点、各2点×5)

(3) ア～コの意味を答えなさい。(計20点、各2点×10)

(4) イ、ウ、キを、イタリア語で綴りなさい。(計6点、各2点×3)

(5) エ、コの省略されたイタリア語を完全に綴りなさい。(計4点、各2点×2)

Ⅲ. 次の楽譜を見て、設問に答えなさい。(計16点)

(1) 調の推移を全て、ドイツ語で答えなさい。(計6点)

(2) 楽譜の で囲んだ小節を長3度上に移調し、調号を用いなくて、解答用紙の大譜表に記しなさい。

(計10点)

以上

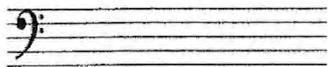
第二次試験

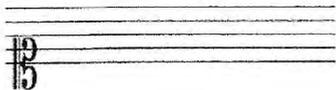
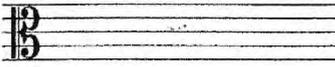
令和3年度
京都市立芸術大学音楽学部入学試験

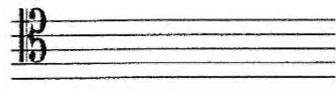
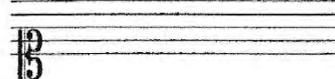
◆音楽通論◆
解答用紙

受験 番号	
----------	--

I. (1) ① _____ ② _____ ③ _____
④ _____ ⑤ _____ ⑥ _____ (計12点、各2点×6)

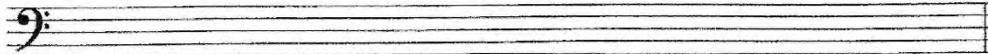
(2) ①  ② 

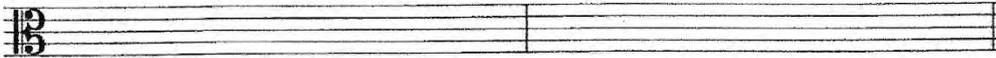
③  ④ 

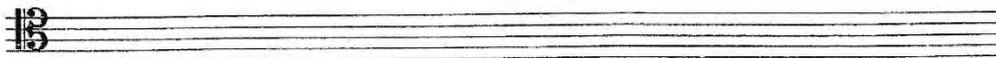
⑤  ⑥ 

(計12点、各2点×6)

(4)  (2点)

(5)  (2点)

(6)  (2点)

(7)  (2点)

(8)  (2点)
[計34点]

第二次試験

II.

(1) ① ② ③

④ ⑤

(計 10 点、2 点×5)

(2) ⑥ ⑦ ⑧

⑨ ⑩

(計 10 点、2 点×5)

(3) ア _____ イ _____ ウ _____
 エ _____ オ _____ カ _____
 キ _____ ク _____ ケ _____
 コ _____ [(3) ---計 20 点、各 2 点×10 (4) ---計 6 点、各 2 点× 3]

(4) イ _____ ウ _____ キ _____

(5) エ _____ コ _____ (計 4 点、各 2 点× 2) [計 50 点]

III. (1) _____ (計 6 点)

(2)

(計 10 点)

[計 16 点]

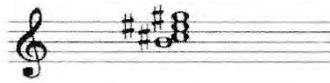
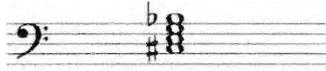
第二次試験

令和3年度
京都市立芸術大学音楽学部入学試験
◆音楽通論◆

解答例 (試験時間 1時間)

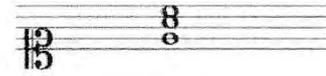
- I. (1) ① 減七の和音 ② 属七の和音 ③ 短三和音
④ 属七の和音 ⑤ 長三和音 ⑥ 減三和音 (計12点、各2点×6)

- (2) ① ②



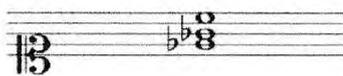
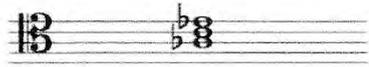
③

④



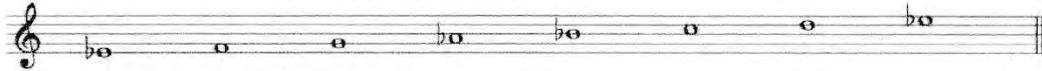
⑤

⑥



(計12点、各2点×6)

(4)



(2点)

(5)



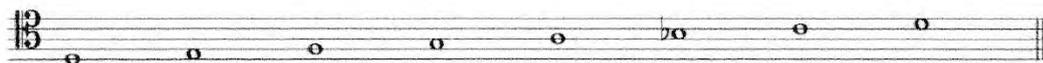
(2点)

(6)



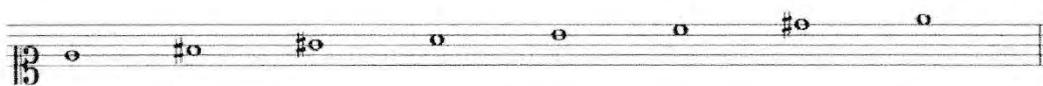
(2点)

(7)



(2点)

(8)

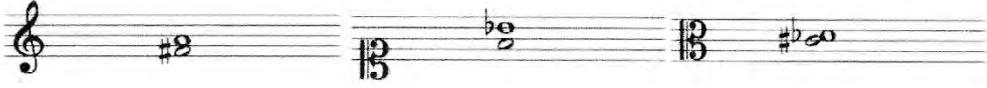


(2点)
[計34点]

第二次試験

II.

(1) ① ② ③

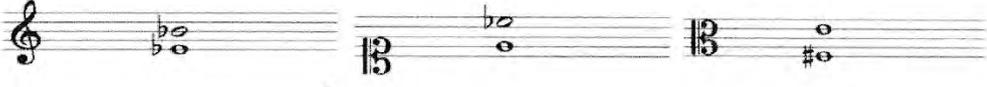


④ ⑤



(計 10 点、2 点×5)

(2) ⑥ ⑦ ⑧



⑨ ⑩



(計 10 点、2 点×5)

(3) **ア** きわめて強く **イ** (音を) 強調して **ウ** (音を短く) 切って
エ だんだん弱く **オ** 消えゆくように **カ** 歌うように
キ (音を) 保って **ク** 冒頭の速さで **ケ** 柔らかく
コ 表情豊かに [(3) --- 計 20 点、各 2 点×10 (4) --- 計 6 点、各 2 点×3]

(4) **イ** accento **ウ** staccato **キ** tenuto

(5) **エ** diminuendo **コ** espressivo (計 4 点、各 2 点×2) [計 50 点]

III. (1) c-moll → B-dur → g-moll (計 6 点)

(2)



(計 10 点)

[計 16 点]

第二次試験

令和3年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

旋律聴音

(主音及び主和音を与える。20秒間隔で、6回通奏を行う。6回目の通奏終了後、1分間を与える。)

The musical score is written on two staves in treble clef, 4/4 time, and D major (one sharp). The tempo is marked as quarter note = 70. The first staff contains measures 1 through 4, and the second staff contains measures 5 through 8. The melody consists of eighth and sixteenth notes, with some triplet markings. The key signature has one sharp (F#).

第二次試験

令和3年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

和声聴音[作曲, 指揮, ピアノ]

(主和音を与える。20秒間隔で、6回通奏を行う。6回目の通奏終了後、1分間を与える。)

♩ = 40

5

令和3年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

和声聴音[弦楽, 管・打, 声楽, 音楽学]

(主和音を与える。20秒間隔で、6回通奏を行う。6回目の通奏終了後、1分間を与える。)

♩ = 40

5

第二次試験

令和3年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

新曲視唱

(予見時間は20秒。主和音を与える。)

Moderato ♩ = 75

mp *mf*

5 *f* *cantabile* *riten.* *mf* *dim.*

第二次試験

令和3年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

コールユーブンゲン視唱

(予見時間はなし。主和音を与える。)

b)

The image shows a musical score for a sight-singing exercise. It consists of three staves of music in G major (one sharp) and common time (C). The first staff begins with a treble clef and a common time signature. The music is written in a single melodic line. The second and third staves continue the melody. The score includes various rhythmic values such as quarter notes, eighth notes, and sixteenth notes, along with rests and phrasing slurs. The piece concludes with a double bar line.

第二次試験

令和3年度京都市立芸術大学入学試験

新曲視奏

(予見時間は2分間。)

N.B. The accidentals apply within the same measure.
注意：臨時記号は同じ小節間有効である。

Lento (♩ = 76)

change the pedal flexibly according to the sonorities

第二次試験

第二次試験 副科ピアノ課題曲（事前の動画提出による映像審査）

副科ピアノの課題曲については、次のとおりとします。

- 1 音階：次の調性の中から同一調子記号による長調と短調を事前に指定する。
速度はJ=76M. M. 以上。
ハ長調 ト長調 ニ長調 イ長調 ヘ長調 変ロ長調 変ホ長調
イ短調 ホ短調 ロ短調 嬰へ短調 ニ短調 ト短調 ハ短調
(注) ハノン第39番による。長調の音階は繰り返し演奏し、終止形をつけて終わる。短調は、和声的及び旋律的短音階の両方を一度ずつ続けて演奏し、終止形をつけて終わる。
- 2 (A) J. S. Bach：平均律クラヴィーア曲集 第1巻より 第13番 嬰へ長調 BWV858
(B) J. S. Bach：2声のインヴェンション BWV772～786 より1曲又はシンフォニア（3声のインヴェンション）BWV787～801 より1曲を自由選択
ただし、インヴェンション第10番ト長調、シンフォニア第5番変ホ長調、シンフォニア第6番ホ長調を除く。
(C) P. I. Tchaikovsky：子どものためのアルバム 作品39より 第16曲「フランスの古い歌」 ト短調

(注) ※作曲及び指揮専攻志願者は、上記1は必ず、2は(A) (B)の中から1つを選択し、演奏すること。
※弦楽、管・打楽、声楽及び音楽学専攻志願者は、上記1は必ず、2は(A) (B) (C)の中から1つを選択し、演奏すること。
※全て暗譜で演奏すること。（繰り返しはしない。）

<動画について>

- ・動画の収録においては、課題曲演奏前に受験番号を言うこと。
- ・カメラアングルは固定し、演奏者の顔と手元が常に明確に映ること（全て暗譜で演奏すること）。
- ・動画は本学受験のために収録したものとし、編集や加工は一切禁止する。また、提出後の差し替え・変更は認めない。
- ・ビデオカメラに音声ボリュームを自動的に調節する機能がついている場合は、演奏の抑揚がなくなるため、使用しないこと。また、音量が極端に小さい、あるいは大きい、また雑音が入ったりしないように収録すること。
- ・映像と音声は同時に収録すること。映像と音声が一致していない場合や、映像や音声を加工したと判断した場合は、失格となる可能性があります。
- ・課題曲1・2はカメラを止めずに続けて演奏し、ひとつの動画に収録すること。

入学者選抜試験変更のお知らせ

令和4年度（令和3年度実施）音楽学専攻の入学者選抜について（予告）

音楽学専攻について、令和4年度入試から下記の内容に変更しますのでお知らせします。

第一次試験 [400点]

- ・ 英語（小論文的な要素を含む） 300点
- ・ 事前提出物（音楽に関する課題作文（2,000字程度）） 100点

第二次試験 [900点]

口頭試問（事前提出物に基づいたプレゼンテーションと質疑応答） 900点

※これまで課していた「音楽通論」「聴音書取」「新曲視唱」「副科ピアノ演奏」は無くなります。

注 大学入学共通テストはこれまでどおり受験が必要です。

2021年4月

京都市立芸術大学 事務局 入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

Tel 075-334-2238

Fax 075-334-2281

<https://www.kcua.ac.jp>